

2025年7月16日
株式会社SVPジャパン

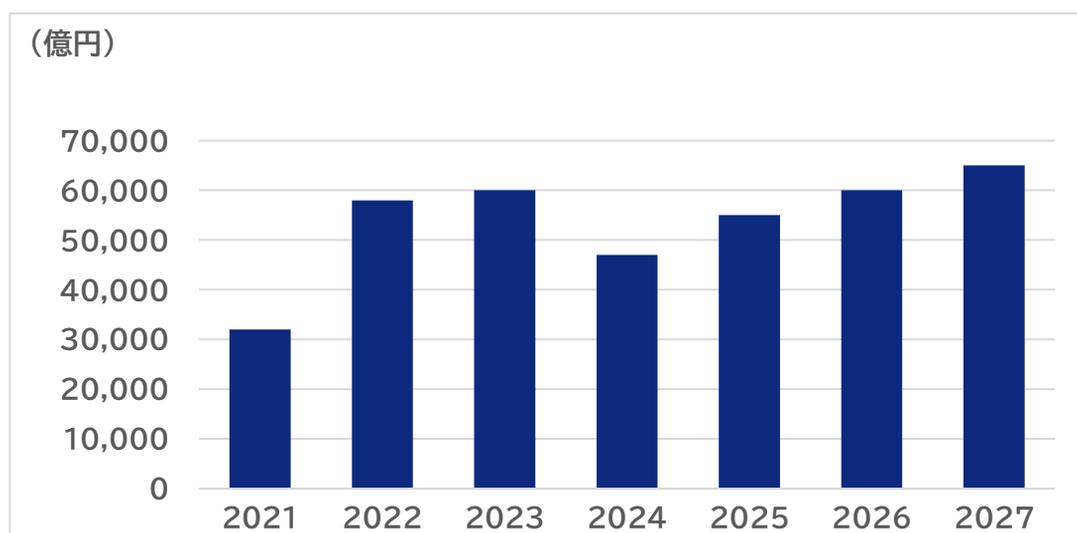
SVP注目市場分析 「リチウムイオン電池電極材料」を公開

～EV時代を支える中核素材、電極材料の進化と展望～



会員制マーケットリサーチサービスを提供している、株式会社SVPジャパン（本社：東京都中央区、代表取締役社長：橋本 雅、以下「SVPジャパン」）は、本日、SVP注目市場分析レポート「リチウムイオン電池電極材料-世界市場の現状と将来展望-」を、会員企業向けに公開いたしました。

■ リチウムイオン電池電極材料の世界市場



リチウムイオン電池（LiB）に不可欠な構成要素である電極材料は、近年、電気自動車（EV）の急速な普及を背景に、その需要が大きく拡大してきた。2023年には世界市場規模が6兆円に達し、2021年比で約2倍の成長を記録した。しかし、2024年に入ってから、EV市場の一時的な減速および電極材料の供給過剰に伴い、価格下落が進み、出荷金額ベースで前年比20%以上のマイナス成長に転じたと推定される。需要は2024年を底に再び回復基調に入ると見られ、2026年には2023年水準に回復、2027年にはそれを上回る水準に拡大する見通しである。2030年以降、次世代電池の本格普及が始まるまでは、LiBの市場拡大が継続するものと予測される。地域別では、中国が最も大きな需要を示し、これに韓国や日本などが続く。製品別では、正極材の比重が大きい。

■ リチウムイオン電池電極材料の市場概況

電極材料はLiBの性能と製造コストに直結する中核材料であり、正極材と負極材に大別される。正極材では、従来の主流であったニッケルマンガン酸コバルト（NMC）やリチウムニッケルコバルトアルミニウム酸化物（NCA）に代わり、近年では安価なリン酸鉄リチウム

（LFP）の採用が拡大している。LFPはエネルギー密度で劣るものの、低価格帯EV向けとして需要が高く、高性能用途では引き続きNMCやNCAが主力である。また、LFPにマンガンを加えた高性能タイプであるLMFP（リン酸マンガン鉄リチウム）の開発も進んでおり、市場競争が活発化している。一方、負極材は依然として黒鉛が主流だが、シリコン系材料など代替素材の開発も進行しており、今後の技術革新と市場変化が期待される。



■ 本レポートの構成

- I. 市場の定義
- II. 市場動向
- III. 市場規模・予測
- IV. マーケットシェア
- V. 参入企業の動向
- VI. 業界構造



←レポート全編を見る クリック

※本サービスのご利用は、SVP会員様限定でございます。

■ 購読について/資料ダウンロード・お問い合わせ

本サービスのご利用は、SVP会員様限定でございます。

購読をご希望の場合、当社SVP会員になっていただきますと、定期的に配信する市場調査レポートを全てご購入いただけます。なお、SVP会員は、ビジネス調査に関する、クイックリサーチとプロジェクトリサーチもご利用いただけます。

資料請求

お問い合わせ



■ 次回のテーマ

8月のテーマは「酸化ガリウムウエハー/パワー半導体」と「自動車」を予定しています。

～SVP注目市場分析レポート更新スケジュール…毎月第1・第3水曜日の発刊を予定～

[会社概要]

社名 : 株式会社SVPジャパン
代表取締役 : 橋本 雅
所在地 : 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-9 宮前ビル2F
設立年月日 : 1974年7月1日
事業内容 : 会員制のビジネス情報提供サービス
URL : <https://www.svpjapan.com/>

[本プレスリリースに関するお問い合わせ先]

株式会社SVPジャパン DX推進部 デジタルマーケティング課
info@svpjapan.com